

●粉 剤(農林水産省登録 第16885号)

2023年4月現在の登録内容

作物名	適用病害名	使用液量	使用時期(収穫前)	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数
とうがん	実褐斑病	30kg/10a	45日前まで	1回	土壌表面散布	1回
だいおう	苗立枯症	150g/10a分の突起板使用覆土約12ℓ	は種前		ペーパーポット用の覆土に均一に混和	
チューリップ	葉腐病	10~20kg/10a	植付時			
花き類・観葉植物	立枯病	50kg/10a	定植前	1回	土壌混和	5回以内
スイートピー	腰折病					
シクラメン	苗立枯病(リゾクトニア菌)					

【使用上の注意(水和剤)】〈抜粋〉

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけてください。
- てんさいの根腐病、葉腐病に対しては、予防的に散布してください。また、根腐病に対しては株元を中心に散布してください。
- ばれいしょに対しては、所定濃度の薬液に瞬時~10分間浸漬し風乾後、貯蔵または植え付けてください。
- さやえんどうの茎腐病に使用する場合、多発地では種子粉衣処理では効果が不十分な場合もあるので、土壌灌注処理と合わせて防除してください。
- オクラの苗立枯病に対しては、植え穴または株元に灌注処理をしてください。
- 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設から廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理してください。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後はうがいをするとともに洗眼をしてください。
- 本剤で処理した種いもは食料や動物飼料として用いないでください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

【使用上の注意(粉剤)】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- てんさいの苗立枯病防除に使用する場合、ピシウム菌、アフノマイセス菌、フザリウム菌に起因する苗立枯病には効果が劣るので、これらの菌が優占する圃場での使用はさけてください。
- ほうれんそうの株腐病防除に使用する場合、多発生条件では効果がやや劣ることがあるので、所定範囲での多い薬量を土壌混和してください。
- 間引き菜、つまみ菜に使用しないでください。
- 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

【使用上の注意(水和剤・粉剤共通)】



- 野菜類の苗立枯病防除では、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、他の病原菌による苗立枯病には効果が劣るので、それらによる苗立枯病の混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤を施設で使用した後、施設内に臭気が残る場合は換気を行ってください。
- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋などを着用してください。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

05R4D23R02:OG

2023年4月作成(小畑プロデュース)

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCG GROUP

住友化学



〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号
お客様相談室 ☎0570-058-669
農業支援サイト [inouryoku.com](https://www.inouryoku.com)
住友化学アグリ事業部



リゾクトニア菌による諸病害・白絹病などに

インソックス® 水和剤・粉剤

リゾレックスは住友化学(株)の登録商標



特長

- 1 リゾクトニア病害などに卓効を示します。
- 2 優れた残効性を示します。
- 3 登録作物数が多く、使いやすい薬剤です。
- 4 りんご／紫紋羽病に安定した効果があります。(水和剤)

地上部からの注入(40ℓ/樹)が可能で大幅な省力化が図れる他、結実樹にも使用できるため予防的な使い方が可能です。

使い方いろいろ さらにワイドになりました!

問題の諸病害防除に

りんご／紫紋羽病(水和剤)・キャベツ／株腐病(水和剤)・ねぎ／白絹病(水和剤・粉剤)・だいこん／亀裂褐変病[リゾクトニア菌](粉剤)・にんじん／根腐病(水和剤・粉剤)・みつば／立枯病(水和剤・粉剤)・ほうれんそう／株腐病(粉剤)

適用病害と使用方法

●水和剤(農林水産省登録 第16882号)

2023年4月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期(収穫前)	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数
てんさい	根腐病	100	ペーパーポット 1冊当たり 1ℓ(3ℓ/m ²)	定植前	1回	灌注	6回以内 (育苗土壌への混和は1回、 500倍希釈灌注は1回、 100倍希釈灌注は1回、 散布は3回以内)
	葉腐病 苗立枯病(リゾクトニア菌)	500~1000	100~300ℓ /10a	30日前まで	3回以内	散布	
ばれいしょ	黒あざ病	50~100	—	貯蔵前または植付け前	1回	土壌灌注	1回
	苗立枯病(リゾクトニア菌)	1000	3ℓ/m ²	は種時		種いも浸漬 (10分以内) 全面 土壌灌注	
にんじん	根腐病	500	300ℓ/10a	14日前まで	2回以内 (は種前は1回、は種後は1回)	2回以内	2回以内 (は種前は1回、は種後は1回)
麦類	雪腐小粒菌核病	1000~1500	60~150ℓ/10a	根雪前			
レタス	すそ枯病 白絹病	1000	100~300ℓ /10a	7日前まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	株腐病	500~1000					
はくさい	尻腐病	1000	—	14日前まで	1回	土壌灌注	3回以内 (定植前の土壌混和は1回)
ミニトマト	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	3ℓ/m ²	は種時			
トマト		種子重量の 0.5%粉衣	—		4回以内 種子粉衣は1回、 は種前の土壌混和及び は種時の土壌灌注は 合計1回、 株元灌注は2回以内		
きゅうり	500	3ℓ/m ²	1回	1回		土壌灌注	2回以内
なす	種子重量の 0.5%粉衣	—					
ほうれんそう	500	3ℓ/m ²	1回	1回	土壌灌注	2回以内	
ピーマン	種子重量の 0.5%粉衣	—					
ししとう	白絹病	1000	1ℓ/株	前日まで	2回以内	株元灌注	2回以内 (は種前の土壌混和は1回)
甘長とうがらし	1ℓ/m ²						
みつば	立枯病	500	0.5ℓ/m ²	90日前まで	1回	散布	1回
みつば(水耕栽培)	1000	100~300ℓ /10a	育苗期但し、収穫40日前まで				
こまつな	リゾクトニア病	1000	100~300ℓ /10a	14日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種前は1回、は種後は2回以内)
メキャベツ	立枯症(リゾクトニア菌)	3ℓ/m ²	は種、仮植時及び定植時				
アスパラガス	茎枯病	500	100~300ℓ /10a	収穫後から茎葉 刈取り期まで但し、 収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	苗立枯病			株養成期 (は種又は定植時から 茎葉刈取り期まで 但し、収穫14日前まで			
メロン	黒点根腐病	1000	3ℓ/m ²	定植時	1回	株元灌注	2回以内 (定植時は1回、生育期は1回)
こんにゃく	白絹病			生育期但し、収穫21日前まで			
だいず		30日前まで	3回以内	土壌灌注	3回以内		
ふき	14日前まで						
りんご	紫紋羽病	1000	40ℓ/樹	60日前まで	1回	土壌灌注	3回以内 (は種前は1回、は種後は2回以内)
オクラ	苗立枯病(リゾクトニア菌)			は種時及び子葉展開時			
うど	白絹病	1000	100~300ℓ /10a	45日前まで	2回以内	散布	3回以内 (粉剤は1回、水和剤は2回以内)
はすいも(葉柄)	茎腐病			7日前まで			
ぎぼうし	白絹病	1ℓ/m ²	90日前まで	2回以内	株元灌注	2回以内	
ブロッコリー	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	3ℓ/m ²	育苗期	2回以内	株元灌注	3回以内 (育苗期は2回以内、 定植後は1回)
				21日前まで			
さやえんどう 実えんどう	茎腐病	種子重量の 0.5%粉衣	—	は種時	1回	種子粉衣	3回以内 種子粉衣は1回、 は種時の土壌灌注は1回、 生育期の土壌灌注は2回以内 但し、は種時に 土壌灌注をする場合には1回
		7日前まで					
豆類 (未成熟、ただし、 さやえんどう、 実えんどう、 未成熟そらまめを除く)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	1ℓ/m ²	は種時	1回	土壌灌注	1回
				2回以内 (は種前は1回、は種後は1回)			
未成熟そらまめ	茎腐病	—	—	前日まで	2回以内 (は種時は1回)	株元灌注	2回以内 (は種時は1回)
未成熟とうもろこし	紋枯病	1500	100~300ℓ/10a	14日前まで			
みょうが(花穂)	白絹病	2000	5ℓ/m ²	14日前まで	2回以内	土壌灌注	2回以内

●水和剤(農林水産省登録 第16882号)

2023年4月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期(収穫前)	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数
みょうが (茎葉)	白絹病	2000	5ℓ/m ²	みょうが(花穂)の 収穫14日前まで 但し、花穂を収穫しない 場合にあつては 開花期終了まで	2回以内	土壌灌注	2回以内
にら		1000	3ℓ/m ²	21日前まで	2回以内	株元灌注	2回以内
にら(花茎)			前日まで				
ねぎ	100	100~300ℓ /10a	土寄せ時但し、 収穫14日前まで	3回以内	株元散布	3回以内	
ふだんそう	立枯病	500	3ℓ/m ²	は種時但し、 収穫30日前まで	1回	土壌灌注	1回
みずな	リゾクトニア病	1000	—	は種時			
チューリップ	葉腐病	100	100ℓ/10a	植付前	5回以内	全面散布 土壌混和	5回以内
		200	200ℓ/10a	植付後~萌芽前		全面 土壌散布	
花き類・ 観葉植物	立枯病 株腐病 茎腐病 白絹病	500~1000	3ℓ/m ²	生育期	5回以内	土壌灌注	5回以内
スイートピー	腰折病 根腐病			—		株元灌注	
カーネーション	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	100~300ℓ/10a	3ℓ/m ²	生育期	5回以内	土壌灌注	5回以内
アスター	葉腐病						
ハイドランジア	くもの巣病 白絹病	100~300ℓ/10a	200~700ℓ/10a	発病初期	1000	散布	5回以内
樹木類	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	3ℓ/m ²	200~700ℓ/10a	発芽後(発病初期)		株元灌注 苗木兼 全面土壌散布	

●粉 剤(農林水産省登録 第16885号)

2023年4月現在の登録内容

作物名	適用病害名	使用液量	使用時期(収穫前)	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数
てんさい	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	125~250g/10a分の 用土約280ℓ	は種前	1回	ペーパーポット用の 用土又は 覆土に均一に混和	6回以内 (育苗土壌への混和は1回、 500倍希釈灌注は1回、 100倍希釈灌注は1回、 散布は3回以内)
トマト		75~150g/10a分の 覆土約20ℓ				
きゅうり		50~100g/10a分の 突起板使用覆土約7ℓ				
なす	50~100g/m ²	—	1回	土壌混和	4回以内 種子粉衣は1回、は種前の 土壌混和及びは種時の土壌灌注は 合計1回、株元灌注は2回以内	
ピーマン	—					
うり類(漬物用)	白絹病	—	1回	土壌混和	1回	
はくさい	尻腐病	20~30kg/10a	定植前	1回	全面処理土壌混和	3回以内 (定植前の土壌混和は1回)
みずな	すそ枯病	30kg/10a	定植時		土壌混和	1回
エンダイブ	すそ枯病	種茎重量の1%	植付前	3回以内	作条処理土壌混和	3回以内 (種茎粉衣は1回、定植前の土壌 混和は1回、株元灌注は1回)
ふき	白絹病	20~40kg/10a	定植前		種茎粉衣	
ねぎ	リゾクトニア葉鞘腐敗病	30kg/10a	土寄せ前但し、 収穫14日前まで	3回以内	株元散布	3回以内
たまねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	40kg/10a	—	1回	全面処理土壌混和	1回
みつば	立枯病	20kg/10a	は種前		全面土壌混和	2回以内 (は種前の土壌混和は1回)
こまつな	リゾクトニア病	20~40kg/10a	—	1回	全面土壌混和	3回以内 (は種前は1回、は種後は2回以内)
麦類	雪腐小粒菌核病	3kg/10a	根雪前			2回以内
だいこん	亀裂腐変症 (リゾクトニア菌)	20~40kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
にんじん	根腐病					2回以内(は種前は1回、は種後は1回)
ほうれんそう	株腐病	40kg/10a	1回	1回	全面土壌混和	1回
ごぼう	黒あざ病					
そば	立枯病	20kg/10a	—	1回	根株粉衣	3回以内 (粉剤は1回、 水和剤は2回以内)
うど	白絹病	3g/株	根株養成畑定植前			